

# メキシコの政策金利引き上げについて

## ポイント① 政策金利を4.25%に引き上げ

6月30日、メキシコ中央銀行は金融政策決定会合を開催し、政策金利であるオフィシャル・オーバーナイト・レートを0.50%引き上げ、年率4.25%とすることを決定しました。利上げは今年2月以来、およそ4か月ぶりとなります。市場で利上げ自体は予想されていたものの、利上げ幅はコンセンサスの0.25%を上回るものだったため、今回の決定は市場で驚きをもって受け止められました。

## ポイント② ペソ安によるインフレリスクに対応

今回の決定には、足元のメキシコペソの下落がインフレ率の上昇につながるのを防ぐ狙いがあります。

メキシコペソは、今年2月に緊急の金融政策決定会合で利上げが決定された当時、対米ドルで最安値圏で推移していました。その後いったん上昇したものの、米利上げ観測や英国のEU（欧州連合）離脱決定などによる世界経済のリスクの高まりを受けて、足元で再び対米ドルで最安値圏で推移しています。

インフレ率は足元で、同中銀の目標とする3%を下回って推移しています。今後の見通しについて同中銀は、インフレ率が緩やかに上昇し、3%をやや上回るものの、年間平均では3%近辺に留まるとみえています。

一方で、同中銀はさらなるペソ安がインフレ率の上振れリスクになるとみており、外部環境の悪化によりこのリスクが前回会合時よりも高まったと説明しています。このような状況のもと、同中銀はインフレのリスクバランスの悪化を重視して、今回の利上げを決定しました。

## ポイント③ 予想以上の利上げ幅を受けペソ上昇

6月30日の外国為替市場（ニューヨーク時間17時頃）では、利上げ幅が市場予想を上回ったことなどを好感し、対米ドルで前日比1.1%、対円で同1.5%程度のメキシコペソ高となりました。同中銀は、今後の金融政策については、為替レートのインフレ率への波及効果や米国の金融政策の動向を注視していくと説明しています。

図1：政策金利の推移

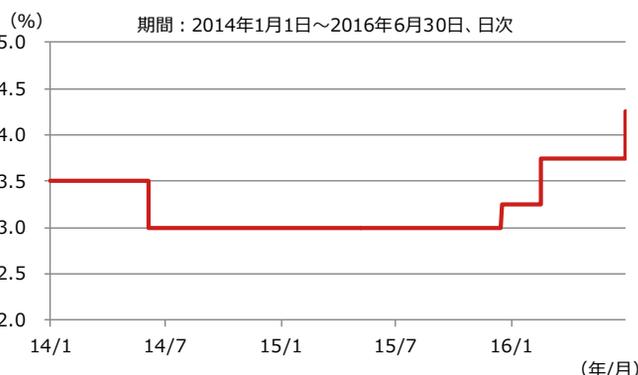


図2：消費者物価指数（前年同月比）の推移



図3：為替レートの推移



(出所) Bloombergデータより野村アセットマネジメント作成

重要  
イベント

7月7日	消費者物価指数(6月)
7月29日	GDP(国内総生産、4-6月期)
8月11日	金融政策発表